

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林尚一
発行所 社団法人千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替長野 6243・東京43341
電話上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

新春を迎えて

社団法人千曲会理事長 山口定次郎

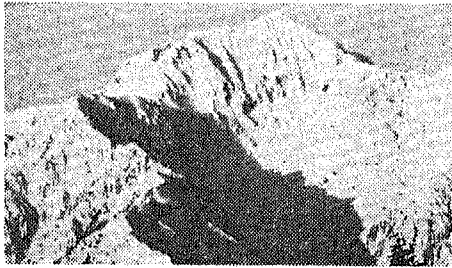
1966年の新春を迎えるにあたり、母校繊維学部の発展を慶賀し、教官、職員、学生の皆様、そして全国同窓生の各位のご健勝を寿ほぎ、併せて新しい年がいよいよご多祥でありますよう切にお祈り申し上げます。

人は新年を迎えるごとに今年こそはと新しい決意にもえますが、この決心もうつかりすれば三日坊主に終りがちです。それが人の心の弱さというものでしょうが、一日に朝あり夕べがあるように、元旦は新しい年を旧い年から区別し、人の心を引き締め、はげましてくれます。まことに不思議なものです。然し自然の姿は時間とともに新しく改まるのに、私たち人間は年とともに老いて墓場への行進を続け、少しも新しくなったとは思われません。一休和尚も正月は「めでたくもありめでたくもなし」と皮肉っています。

ところで新約聖書の中にはギリシヤ語で新しいという語に二通りあって、その一つはネオスで、これは時間的、表面的な新しさを表わし、もう一つはカイノスという語で、これは質的、内容的な新しさを意味しているといわれます。そこで私たちはネオスの新しさにともなう、肉体は老いても精神的にはカイノスを増し加え若返ってゆくように心がけなければならぬことをつらつら反省させられます。こうした形で新しさを加えることによりはじめて「正月は冥途の旅の一里塚」ではなく、心から「新年お目出とう」と慶び祝えるのではないのでしょうか。

さて私は一昨年初、光栄ある理事長の席をけがしたのでありますが、年頭にあたり多事であった千曲会の一年を回顧しまた本会今後の在り方などを反省してみたいと思います。

昭和40年度の一般会務については微力ながら、私なりの努力を尽してまいりました。幸に理事、幹事および事務局など各位の献身的なご協力に加うるに顧問、相談役諸賢のご指導により、各部の事業も順調に果すことができ感謝のほかありません。また最近全国多数の支会や部会が活発になり、学科の別や年齢の差別もなく、出席率もよく同窓生間の親睦の実を拝見することができ、まことに心強く喜びにたえません。この支会の運営活動については、支会長をはじめ幹事諸氏の一方ならぬご尽力を忘れることはできません。本会の財政につきましては年間収支予算僅かに130万円内外で5,000余人の会としては貧小なもので、各担当理事の熱意により事業は相当な効果をあげていると自負しております。然し最近数年間の会費納入率は金額にして約37%で、従前よりはかなりよくなりましたが、資産造成に一段の工夫を必要としております。次に「会報」は目に見える唯一ともいべきもので、毎年いろいろに議論されますが、とに角今日まで全会員に配布しております。一昨年発行の名簿も、大変好評で売行きもよいようです。この他厚生施設の理髪所も学校や同窓生のために奉仕しています。御代田の寮「楓荘」は夏の利用率正に100%であります。



遠見尾根より鹿島槍を望む(柴崎高陽氏撮影)

次に昨年は問題が多く、いくたびか理事会を開き各位のご心労を煩わしました。特に教養統合参加に至るまでの報告と続いて両三年来懸案の、三大学蚕糸教育改善の問題を中心に協議いたしましたことは既報の通りであります。後者については、臨時総会の決議にもとづき、大学側、同窓生、業界など三者の研究懇談会をいくたびか開催しました。

続いて昨秋第26回本会定期総会を開催しましたところ、北は北奥、宮城をはじめ南は宮崎、熊本に至る全国各支会から代議員60余名の諸氏が出席され役員、地元同窓生を加え106余名となりまことに旺んな総会となりました。母校愛、同窓愛の情熱と誠意に溢れ力強い限りであり敬意と感謝を禁じえませんでした。懇親会も非常に盛会でありました。

この総会では(1)千曲会報はその効果と財政面から考慮して年4回発行に縮減することに改められ、(2)本会入会金(入学の際納入)は従来の400円を1,000円に増額することに決定。従って(3)定款の一部変更が行われました。なお入会金は入学の際1万円を納入してもらい卒業後の年会費は徴収しないがよいとの意見も出て、賛意と反響も多く今後の宿題となりました。

次に今回の総会の主要議案ともいべき「蚕糸教育改善の問題」については、これこそ、新旧同窓生のひとしく強い関心事項であります。本紙学部長の挨拶にもありますように、情勢は極めて緊迫しておりますので、ひとり同窓会の意志表示のみで動かされるような単純な性質のものではありませんけれども、私は年1回のこの総会では、できる限り実情を把握していただき、その上十分討論をつくし、統一した意見ができれば、母校や外部への要望として頂くよう提案の理由を説明いたしました。討議の内容は別記議事録をご覧うとし、その結果のみを申せば、同窓会も統一的意見は出せないが、文部省、三大学、業界など十分審議を重ねた上で「統合された蚕糸教育機関は上田または長野県におくよう要望する」という結論をえたわけでありました。

終りに千曲会の在り方については最近の中心問題であり、この辺で根本的に再検討を加えるべきではないかという声が高まってまいりました。すなわち、おもに千曲会本来の目的財政向上の悩み、学内理事などの在り方、役員構成、賛助員と正会員の関係などについてであります。なお母校と同窓会とはともにつねに表裏一体となって大学の隆昌発展を祈るべきものであることに変わりはないのですが、母校の変革というような大問題になると、相互の意見の相違や多少の行きすぎも起りやすく、自治侵害の誤解も生まれるおそれもあるので今後千曲会は何う在るべきか、目的、事業、役員構成など、いろいろ考え直さねばなるまいという議論もでて来まして、これ等は今後の重要課題として残されています。多数会員諸賢の新春の宿題として、ご高見を承まわることができれば幸であります。以上新春の賀辞にあわせて千曲会の現状報告と愚見を陳べてごあいさつといたします。

母校この一年の動きについて

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

はじめに

昭和30年度頃から日本の大学は、国の文教政策、世界の大学の動きに対応して、いづれも教育研究、機構、制度などのあり方について、長年の慣習を打破する激しい動きの渦にまきこまれている。この状態は戦後のベビーブームに原因する大学志願者の激増の時態にも関連してますます激しさを加え、大学はいまいわば一大変革期に際会しているとも云える。わが繊維学部としても全く、この激動のらち外にあることを許さず、とくに学部の性格に由来して、他の大学よりもいっそう深刻な変化を余儀なくされており、とくにこの1年間におこった変化は未だかつてない激しいものであった。

以下これらの動きについて概略をご報告する。

一般教育の統合について

この一年間に本学部におこった最大の事件は、信州大学の一般教育統合の線に添って、学部もこれに参加することを決定したことである。事ここに至った事情と経過については千曲会報に詳細ご報告したのでご承知のことと思う。現在文部省ならびに大蔵省には大学における一般教育を大学ごとに1ヶ所で行うという強い政策があり、各大学はほとんどこのすう勢に従うという情勢にある。このことについて信州大学も一昨年以來評議会において何回も協議を重ねたが、本学部および教育学部だけが反対の態度を持してきたが、本年の初め教育学部が松本の分校を廃止して統合に参加するという決意を發表して以来、本学部を除く他の学部は全部統合を極力推進する態度に一致して来た、学部は問題の発生以來いく度か慎重審議を重ねたが、多数の学部教官の意向、学生の希望、文部省の強硬な態度などによって遂に、統合にふみきらざるを得ない決意をすることになった。このため長年実施して来た一般教育と専門教育を融合させた特徴ある教育形態はついに放棄するの止むなきにいたった。私個人は人格形成のための一般教育は各学部において専門教育と密着させて4年間にわたって丁寧に扱うべきであるという持論を今もって棄てていないが、文部省の「大学設置基準等研究協議会」の一般教育の修得単位縮少の答申によってもわかるように一般教育の軽視の風潮、日本の大多数の大学が一般教育を1ヶ所で行うという大きな流れ、さらには信州大学および学部内教官多数の意向によって、いつまでも自説を固執することが許されなくなった。しかしたとえ1年の短い期間でも全大学の学生が1ヶ所に集まって教育をうける制度があながち悪い制度であるとも断ぜられず、専門の異なる他学部の学生とふれあうことによって視野を広め、人間をみがくことは、やがて社会に出た場合いろいろな点で役にたつことはありうることと考えられる。われわれは一般教育統合という条件下において、今後思いをあらたにして、学部の教育研究にできるだけ力をつくしてゆきたい覚悟である。

蚕糸教育の統合について

本学部におこった第二の大きな問題は全国の蚕糸学関係学科の統合という問題である。このことについては最近の千曲会報に山口理事長が詳しく報告されているのでご承知のことと思う。

日本蚕糸学会には一昨年頃から日本の大学における蚕糸教育の改善をはかるために、3大学の蚕糸教育関係の学科を1ヶ所に集めて質的向上をはかりたいという考えがあった。理由とする所はこの頃の蚕糸関係学科の志願者の激減、学生の質の低下、蚕糸関係プロパーへの就職の減少によって学科の

性格があいまいになり、学科の勢いが極めて低調になったことにある。このような能率の悪い学科は大学生急増対策に悩む文部省、大蔵省としても縮少乃至は整理すべきではないかという強い考えがあり、そこで昨年文部省内に「大学における蚕糸教育の改善に関する会議」が設定された。この会議は前農林省蚕糸試験場長横山忠雄氏を委員長として10余回にわたる審議の結果、本年3月結論をえて文部省に答申を行った。その骨子とする所は「現在の3大学の蚕糸教育は甚だ憂うべき状態にあり、今にして「てこいれ」をせねば蚕糸業界に対する技術者の供給は年ごとに困難になるであろう。これを改善するには蚕糸学の教育は養蚕と製糸を一貫した体系のもとにおいて、蚕糸学科とし、この学科は繊維学部及至は工学部においては育成に困難があるので、これは農学部において行うべきである」なおこの答申の文章にはあらわれてはいないが、出来るならば3大学の蚕糸関係学科はこれを1ヶ所に統合し、規模は小さくなくても内容の改善充実をできるだけ計ってゆきたいという意向が委員会および文部省内にきわめて強い。答申の具体的内容としては「蚕糸学科には蚕糸学専攻と製糸学専攻の2専攻を設け、講座数は合せて10、入学定員は90名程度とする。学科には大学院をおき、別に4研究部門からなる学部附属の蚕糸生理研究施設をおきたい」とある。一方、文部省内に設置されている「大学設置基準等研究協議会」においてもその農学分科会では蚕糸教育は農学部において行うことを3月末文部大臣に答申している。

以上委員会および文部省の意向を守ることになれば、当学部に現存する繊維農学科と紡織工学科にある製糸関係講座は本学部には存置不可能になり、これを農学部しかも1ヶ所に集合せざるを得ないことに解釈される。

この問題については当学部では問題の発生とともに直接蚕糸教育に関係する教官、学部将来計画委員会ならびに教官会議等において鋭意検討中である。幸にこの問題は本日の総会の議題にもなっているので、詳細はその時に説明したい。

そ の 他

昭和39年度から発足した本学部の大学院修士課程はその年の入学者は僅かに4名に過ぎなかったが、本年4月の入学者は14名を数えた。大学院は入学者を厳選し、格調の高い研究課程を企図し本学アカデミズムの基調となることを期待しているが、幸に学生は真剣に勉強し、大学院学生をあずかる研究室の研究活動にはいまだかつてみられない活発さが発揮され、関係者一同の覚悟をいっそう強固としつつある。昭和41年度の入学者は第一期として13名を内定した。

研究面の開発についてとくに申しあげたいことは待望の高分子工業研究所が国立研究施設として正式に来年度の文部省予算に計上されたことである。これは年末の大蔵省査定をパスし、国会を通過すれば来年4月から発足することになる。本研究所は学部の切なる希望によって本学部改新期成同盟会の寄付金によって217坪の研究室を新築した、いわば学部私設の研究施設であったが、幸に研究業績が文部省の認めるところとなって正式に国立移管が問題になったものである。

高分子工業は原子力産業、電子工業とともに第三次産業革命の一つの柱として、急ピッチをもって進展している新興産業であって、プラスチック、ゴム、接着剤、塗料その他の原材料として金属、木材、陶器などに代替され、将来の発展に目をみはるべきものである。繊維そのものも勿論、その一方を代表する高分子物質であるが、その飛躍的発展は高分子学

の基礎の上に確立されるべきものである。われわれは学部の性格を単に繊維というせまいフィールドに閉じこもらず、より基礎的な高分子工学の広い基礎に立脚して教育と研究を進め学部の特徴を発揮してゆきたい念願である。高分子工業研究所の研究部門は高分子物性、高分子合成、高分子成型、放射線高分子学の4部門を予定しているが、来年はこの中の一部門から設置し、このために将任教授以下6名の所員の配当をうけることになっている。幸に国会を通過すれば、大学院とともに本学部の研究面の進展に寄与する所きわめて大きいものと確信する。なおこの研究所はさらに同盟会の寄付金によってもう100坪を増築する計画でこの12月から着工の予定

である。

次に学部の建物についてであるが、昨年9月から着工した講義室専用の建物608坪、ならびに繊維化学工学研究室600坪のうちの残り半分300坪はともに本年3年末竣工した。このうち講義室専用建物は先般焼失した旧本館429坪の復興であって、この復興については千曲会々員各位の多大のご心配にあずかったが、幸に近代的新装の建物に生れかわり、4月以来気持のよい授業を続けている。なお昨年から計画していた紡織工学科の研究室683坪はこの9月に着工し来年3月末には完成の予定である。また繊維農学科の蚕室108坪の移築も決定し、すぐに着工する筈である。

千曲会総会に出席して

—とくに蚕糸教育のあり方について—

宮 下 久 吉 (蚕32)

○はじめに

筆者は母校卒業後既に20年以上経過したが、この間最近の2年間を除いてその大半は蚕糸行政の仕事に携ったものである。小生の経験から考えると現在問題になっている蚕糸教育のあり方をめぐる論議には何かある何物かが欠けているように思われる。今回の総会において蒲生名誉教授を始め、猪坂直一氏、竹内善吾氏、山本友之丞氏、母袋忠衛内氏を始め、母校の小泉学部長、山口教授、野口教授、田口教授、松尾教授等の発表されたご意見には感銘深く拝聴することができ、かつ流石に千曲会のリーダーとして角度は異なっても卓越した識見について伺うことができ大層嬉しく思った次第である。とくに蒲生先生が学部の意見と業界の意見の対立はおかしい、真理は一つであると強調されたお話は、今後母校における蚕糸教育問題を論議する姿勢として根本的に重要なことと思う。しかしながら小生の拙い経験から申し上げるならば、学校当局と業界の意見が一致するためには、蚕糸業の将来に対する考え方について一歩前進した考慮が必要のように思うのである。小生のこれから述べる見解が果して妥当なりや否やということは広く会員各位のご批判を頂かなくてはならないが、蚕糸業を離れた職場に居る一人の卒業生の考え方として若しご参考になる点があればと思ひ筆をとった次第である。

○学校と業界のジレンマの原因は何か

この度の総会で山本名議長の巧みなる司会によって、蚕糸教育の問題点が始めての人にも理解できるように提示されたことはまことに幸であった。小生も次々といろいろな角度から多面的に展開される蚕糸教育の問題の所在が、かなり判ったように思うし、学校と業界（とくに千曲会関係）の意見には夫々言い分があることがはっきりしたと思う。蚕糸教育をしても、卒業生を五大蚕糸会社が採用しないという現実で教育できるのかという学校側の意見は端的に言って大学側における根本的な問題だと思ふ。仮に蚕糸学部を作ってもあと10年持つかどうか疑問だという小泉学部長の見解は蚕糸業の現状から考えるならば当然の疑問ではないかと思ふ。他方業界が多年の歴史と伝統と研究業績を誇る母校から蚕糸教育をとり去ることにしつゝびがたい感情のあることも小生は同窓生の一人として良く判るような気がする。結局小生は両者のジレンマの原因は日本の産業の中に占める蚕糸業のウエイトの縮小にあると思ふ。学校側と業界の両方の要求を満足する条件は、蚕糸を専攻する大学卒業生に新しい職場を提供することとができるような環境を作り出すことができるかどうかにかかっていると思ふ。果してその道はあるかどうか、それが問

題である。

○蚕糸業を世界的視野で考えよう

世界における絹の需要は年率5%の割合で伸びており、この現実からすれば蚕糸業が人類にとって必要な産業であることは疑問の余地は無い。しかし日本の蚕糸業が年率5%の割合で伸びるかどうかには疑問がある。いうまでもなく蚕糸業の基である養蚕業の発展に重要な制約があるからである。価格安制度もあり技術普及組織も完備した養蚕業が何故に停滞しているかといえば、小生は養蚕の性格が企業のベースにのり得ない弱点を有しているからだと考える。つまり養蚕の本は桑であるが、これは日本においては一年中収穫することはできない。これに対し戦後急速な発展を見ている畜産は、年間飼育できるという長所を有し、企業的農業としての条件をもっているのである。温室ビニールハウス等の園芸作物についてもこのことは云える、今更云うまでもないが、日本の農村は有史以来の大変動期に際会しており、その最も顕著な現象は労働力の減少である。農業を本業でやる青年達の志向の大部分が畜産と園芸に集中していることには理由があると思ふ。需要の増大ということの外にこれらの農業が企業として成立つ要素を持っていることに吾々は注意しなくてはならない。つまり小生の考えではこのような特質をもつ畜産、園芸と競争しなければ増産することのできない蚕糸業は日本国内においてはその発展に眼界があるといいたいのである。蚕糸業の発展に眼界があるとあれば大学における蚕糸教育が云々されるのも当然と云わなくてはならない。結論から云うならば蚕糸業は日本国内のみで考えずに国際的視野で考えよということである。とくに今後国際的に見て東南アジアに対する日本の役割が大きな期待を寄せられているが、これらの国の農業人口は80%以上という我が国でいえば明治初年の水準にあり、これら後進国の経済発展は農業を中心として発展させることが肝要だとされているのである。しかも自然条件は日本の比でなく養蚕の年間飼育も可能であるから、日本の技術と資本によって東南アジアのある国の蚕糸業を開発し、日本の蚕糸業と一体となるような運営の方式を採用するならば低開発国の経済開発と日本蚕糸業の拡大の二兎を追うことが可能であると思ふ。もしそういうことになれば蚕糸専攻の大学の卒業生も東南アジアの指導者としてかなり需要されるものと思われるのである。このことは決して夢物語ではない。現に昭和初頭において東南アジアで企業的養蚕を実行した経験者から筆者等の聞いたところでは、ある条件さえ整えば実現の可能性は極めて大きいと思われる。いつれにしても蚕糸教育の問題を考えるに当っては、蚕糸専攻の卒業生の先行に

ついで先づ考慮することが先決であり、そのためには世界的視野に立って蚕糸業を考えないと解決しないと私は思うのである。

○おわりに

養蚕機械化、自動繰糸機、軟化病、桑品種(倍数体)の例をとって考えても、いづれもこのような画期的な研究が母校もしくは卒業生によってなされていることは周知の事実である。これは千曲会が誇って良いことだと私は思う。若し母校から蚕糸教育が失なわれたら、これらの成果はどうなるのかこれらの立派な卒業生もよい所がなくなるが、それでよいかこれらの成果には本人のみならず実は母校及び千曲会員の有

形無形の協力があったものと小生は思っている。その協力の母体は母校と千曲会ではなかったか、それが失なわれるということは千曲会にとっては全くたまらないことだと思うのである。小生はこの際母校から蚕糸教育をとり去ることの結論を急がずに、母校に蚕糸教育を置く(形は問わない)にはどうしたら良いかという観点で前向きに論議されることを期待したいと思う。

「50有余年に亘る母校の歴史から蚕糸の二字を簡単に取り去ってはならない」。それは歴史を築いた多数の先輩に対して大そう失礼であり、吾々のとるべき道ではあるまい。

(40.12.2記) (筆者は農林省農政局普及教育課教育班長)

家蚕における褐円斑紋の変異に関する発生遺伝学的研究

——蒲生卓磨博士論文紹介——

蒲生氏は信州大学繊維学部養蚕学科(学蚕5回卒)を昭和32年に卒業し、さらに向学の志に燃えて九大農学部大学院に進学、そこで林禎二郎前教授や筑紫春生教授の御指導により上記表題に関する研究を遂行してきた。その結果、永年の努力と研鑽による成果が認められ、昨年の1月栄えある農学博士の称号を九大農学部より授与された。

学位論文の内容について極く簡単に紹介すると、正常蚕では第5環節に1対の半月紋と第8環節に1対の星状紋を現わすのに対し、褐円斑紋遺伝子をもつものは胸腹部環節の背面に何対もの大きな褐色斑紋を現わすもので、しかも種々な条件によってその発現が異なるものである。同氏はこの褐円斑の現われかたについて遺伝学的、組織学的ならびに発生学的に詳しく調べ、褐円斑紋形成の機構を主として発生学的見地から攻究したのである。

褐円斑の発現に著しい変異性のあることは早くから知られ多くの研究者によって遺伝学的研究がなされてきたが、まだ定説をみない状態であった。そこで同氏はこの点を明確にする意図をもって、温度がどのように褐円斑紋の発現数に影響をおよぼすものであるかを、組織学的ならびに発生学的に研究し、次のような見解や結果を得るに至った。

褐円斑の発現は、環節ごとに働くそれぞれ別個の遺伝子の作用によるものではなく、褐円斑遺伝子が環節全体に作用しその作用程度の大小によって斑紋数の多少が表現されると考えられ、斑紋数の多少に応じて異なる発現値を設定して褐円斑の変異分析を行った。

交雑および選抜実験から、斑紋数の中間のものほど発現の安定性が低く、交雑した場合とくに雑種第2代(F₂)における分散は急に大きくなり、それからの選抜の効果は発現値の高いものほど強力であることがわかった。また種々の正常系統や劣性の多星紋(ms)系統との交雑後代に発現する褐円斑の変化の状態とか卵期における保護温度の相異などによってどのように発現値に変化が認められるかを調べた結果、次の

ような推論に達した。

褐円斑の発現度は斑紋原基の形成を抑制するように働く優性の同義遺伝子の量的関係によって第一義的に支配され、しかもその同義遺伝子の斑紋造成効果は生体内外の環境によって変更されやすいのである。褐円斑紋遺伝子(L)の作用はこれらの遺伝子と、内外の環境との相互的な作用結果として形成される原基に立脚して、斑紋部位の着色と組織変化を行なうにすぎないものである。

また斑紋原基の生成が内外の環境によって変動することについてさらに詳細に調べたところ、卵期の催青温度が15°Cの場合には25°Cの場合より常に発現値が高くなるが、発現値が最大となっているものでは温度に影響されず、褐円斑の発現度に変化が認められないことを知った。温度の影響を受ける時期は胚子の反転前期から反転後期までの約3日間である。

さらに感温期の温度による斑紋の多発効果は25°Cが最少で、それより低温または高温になるに従って増大することを発見した。しかも感温期にあたる反転期の3日間は斑紋原基の分化の初期に相当することを実験発生学的に究明し、その結果反転期における温度は遺伝子の作用に直接影響するものではなく、胚子の発育速度を変更することにより原基形成量の差異を導くと云うような働きをもつものか、あるいは抑圧的に働く同義遺伝子の作用に影響を及ぼして、斑紋原基の形成に差を生じさせるものと推論した。

最後にこの推論の正しいことは、発育の早い系統を用いての交雑実験や越年卵およびそれを非休眠化した卵を用いた実験からも、裏付けられると述べている。

以上が蒲生氏の学位論文の要旨であるが、氏は現在農林省蚕糸試験場に勤務し意欲的に研究を進めている。蚕品種の性状調査の仕事を生理遺伝学的立場から行ってみたいとももらしている。今後益々立派な成果をあげ、蚕糸業の発展に寄与されることを期待するものである。(文責武井)

千曲会員名簿残部整理

昨年発行した会員名簿は残部約300部となりました。この整理のため 頒価1部200円、送料別に90円です。(発行当初は300円、送料別に100円) ご入用の方は本部宛至急御申込下さい。

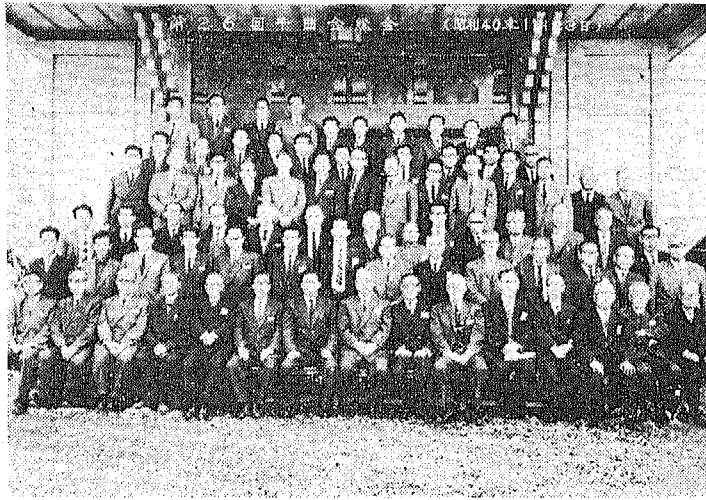
社団法人千曲会 勤務部

短篇童話

初馬 (古稀記念刊行)
戸倉八峯(蚕2) 編集 B6版 37頁
千曲会員頒価 100円 千20円
申込所 静岡県袋井市高尾
戸倉八峯
振替口座 東京 1.550

第26回千曲会定期総会記事

11月23日恒例の本会代議員総会は母校第1会議において午前10時より開催された。出席は北は北奥支会から南宮崎支会にいたる29支会から代議員、役員、会員計98名出席、いままでにない盛会であった。山梨支会からは祝電、石川支会外10支会から委任状が提出された。総会次第は次のとおり①開会のことは、田口理事によって開会。②理事長挨拶、山口理事長より各支会代議員が多忙の中を出席された謝辞があり、本会の事業概況と総会の議題特に蚕糸教育について十分の意見を聞き善所したいと挨拶があった、詳細は正月号年頭挨拶を参照されたい。③名誉会長挨拶、小泉学部長から母校一年の動きについて教養統合問題、蚕糸教育の問題等について述べ蚕糸教育問題については教官会議、学部将来計画委員会等で研究中である。昨年発足の大学院は遂次充実し学生もよく勉強している。高分子工業研究所が来年から国の機関として発足することに内定しており、改新期成同盟会により100坪増築が決定している、学部の建物は講義室600坪が完成し更に現在紡織工学科研究室683坪が明春3月竣工の予定であり、繊維農学科蚕室も改築に決定している。詳細は正月号小泉学部長寄稿「母校一年の動きについて」をご覧願いたい。④議長選出山口理事長から議長選出方法を計り、事務局一任の動議により、議長に宮城支会山本友之丞氏、副議長愛知支会小山田峻氏と決定した。



山本議長から挨拶があり議事録署名委員に石川博、箱山佳夫両氏が決定した⑤報告事項(1)一般会務報告、田口理事から理事会、臨時総会監事会等経過報告、支会の活動状況、会員の現況、新入会員との懇談会について、会費納入状況、本日の総会の出席状況について報告があった。(2)臨時総会後の経過報告、山口理事長から蚕糸教育については学内教官、卒業生、業界で十分研究する必要があるとの臨時総会の決議にもとづいて行われた事務連絡会(常任理事会)学部教官と、業界人との研究会、長野県蚕糸業振興会に理事長が説明に出席したこと、学部長名で業界人との研究会の開催、文部省主催の3大学協議会に出席等詳細経過報告があった。(3)動静部報告、関理事から会員名簿の発行結果報告があり、各支会の協力によって会社広告の斡旋を戴き又会員名簿の購入等好成績で一般会計に残金一部を繰入することが出来た、残部数は整理のため一部200円で会員に分譲する。(4)厚生部報告、三石理事から厚生施設楓荘の設備状況と会員の利用状況について報告あり、本年は7月には利用者がなかったが、8月は連日利用者で盛況であった、近くの御代田町営ツリ堀運動場施設が完成したので今後一層利用されたい。(5)母校火災復興資金報告について町田理事から実行委員会から理事会に引継された資金その後の現況説明があった。(6)上田繊維科学振興会事業について北条理事から研究助成、学会講演会等事業報告があった。山本議長、報告事項について一括質問に入り異議なく承認された。⑥議事(1)昭和39年度歳入歳出決算について(本部提案)町田担当理事から別紙(正月号9頁)昭和39年度歳入歳出決算について逐一説明があった。

- ◇山本議長 監査結果報告を願います、北条五郎右衛門監事から11月17日監事会を開いて北条、福地、山崎3名の各監事により精細な監査の結果異常なかった。
- ◇山本議長 質疑はないか。
- ◇森力雄(三丹支会) 三丹支会の39年度の納入率は少いがど

- うか。
- ◇白井(事務局) 三丹支会は39年度会費を40年度になって納入過年度会費として40年度に入っているの、別紙資料支会別会費納入調のとおりである。
- ◇花岡(諏訪支会) 会費納入額は支会還元分も含んで表示されているか。
- ◇白井(事務局) 会費全額表示である。
- ◇小出(静岡支会) 菅平部分林について説明されたい。
- ◇町田理事 紀元2600年記念植林したもので菅平大松山(現スキー場の反対側)地籍2丁8反8畝で、40ヶ年したら伐木でき、収入は国3分、民7分となっている、戦後千曲会の管理とし、収入は千曲会50%、学部に50%を備品寄附することになっている。
- ◇石塚(北奥支会) 特別会計と厚生施設費の関係はどうか。
- ◇町田理事 特別会計は以前別所にあった厚生施設を他に譲渡した資金で今度の楓荘施設費の一部に支出した。経理内容は資料のとおりである。

- ◇山本議長 この議題について外に質疑がないから本案を認定されたものとして宜しいか。(異議なく可決決定)
- 午後1時から再会。
- ◇江野村(山陽支会) より発言、千曲会員で地味な業績を上げている会員の表彰をしたらどうか、役員で千曲会に功績のあった人も表彰したらどうか。
- ◇山本議長 理事長の意見を聞きたい。
- ◇山口理事長 研究者については褒賞の制度があるが、一般の場合は

- 研究したい。
- 日程議題に入る。
- ◇山本議長 議案(2)、(3)、(4)を一括審議願いたい。
- (2)昭和41年度歳入歳出予算について(本部提案)
- (3)会報発行縮減について(〃)
- (4)入会金増額に伴う定款の一部変更について(〃)
- ◇町田理事 提出議案について別紙資料の説明あり。
- 質疑
- ◇花岡(諏訪支会) 入会金は入学のさい終身会費として一万円徴収したらどうか他大学の実例もあり私立大学に比して極めて安い。会報の学術的ものは学術誌にゆづって、会員誰もが親しめる記事にして欲しい。
- ◇西沢(上小支会) 花岡氏の発言は重要であるからもっと討議され度い。
- ◇花岡(諏訪支会) 総会で入会金だけ定めて集金方法は事務局に一任する。
- ◇北条理事 来年から新入学生は松本市に1ヶ年行くので、1万円を急に集金することになるとむづかしい。
- ◇小出(静岡支会) 終身会費には色々問題があるので慎重にして欲しい。
- ◇野口顧問 この問題は将来検討するというににして欲しい。
- ◇武田(埼玉支会) 本支会でも会費の納入率は極めて悪い、特に若い層の納入がある、卒業生についても終身会費を考えてもらいたい。
- ◇町田理事 次回総会に提案したい。
- ◇山本議長 会報の発行について意見は。
- ◇田村(愛知支会) 年10回発行を確保されたい。
- ◇石川理事 会報の学術面が会員よりの批判があるので、この面は学術誌にゆづり、会報は第5種郵便物として年4回発行を考えた。

- ◇山本議長 原案賛成、発行回数は出来るだけ多く発行することを認め原案どおり処理したい。(賛成の声)
- (6)蚕糸教育改善の問題について(本部提案)
- ◇山口理事長 蚕糸教育改善問題は本年6月から学部で問題にとりあげた、業界の立場もあるので意見を伺いたい。
- ◇小松(諏訪支会) 蚕糸業の後継者を養成する機関を蚕糸業の中心である上田においてほしい。
- ◇山本議長 学内の意見を聞きたい。
- ◇小泉学部長 11月15日文部省会議7人委員会の横山忠雄氏石川東京工業大学教授、3繊維学部長が出席、学術局長は文部省としては養蚕、製糸を一貫させて一ヶ所に統合農学部で行う考えであるから協力してほしい、来年1月頃結論を得たい。といったのでそれは早急ではないかといった。東京農工大では養蚕、製糸などを併せ蚕糸学部をつくらどうか、絹加工学科は繊維学部又は工学部におくべきだと話し合いになった。京都工芸繊維大学は現状維持を主張で文部省では考え直してほしいといった。当学部では3年前から問題となった。養蚕は繊維農学科で、製糸は紡織工学科で研究している。学部の態度決定は独自のであってはならないので各方面の意見を聞いた。業界は上田の地においてほしい、出来なければ県内においてほしい。学内一つの意見は織農の勢いが劣っている、これは業界にも責任がある。繊維農学科は生物工学科とし別に蚕糸学部をつくり別建てに上田又は長野県下に造ればよい。さらに繊維農学科を現状維持して体質改善したい。多数の勢いは改善に傾いている。教官会議ではきめていない。私は上田に蚕糸学部を設置したい意見もあることを文部省の委員会で述べた。
- ◇野口顧問 学部将来計画委員長として発言、将来計画委員会の最終結論には違っていないが統合には賛成である。付帯条件として代学科例えば生物工学科を作る、過去の同窓の努力に感謝し、同窓とよく連絡をとってゆきたい。蚕糸学部を作ることに異論はなく、統合の場所は上田を望むことは勿論であるが必ずしも固守しない。
- ◇猪坂相談役 同窓生としてではなく県の蚕糸業審議会委員として蚕糸業者の意見を述べる、整備統合することは賛成である。しかし3つを1つにすることは不賛成、文部省案の農学分野におく意見は7人委員会の構成から当然。絹糸加工を蚕糸から離してはならない。学問は地方に分散して行く傾向にある今日場所は長野か群馬であろう、長野は第一であろう個人の考えとしては蚕糸学部を長野においても良いが、6年制専門学校を作らねばならないようになると思う。各大学の教官だけの考えでは問題である。蚕糸業者にとっては以上の方向に進んで欲しい。
- ◇母袋副理事長(長野県議会議員農政委員) 業者から統合反対の声がある、知事、農政委員会は蚕糸業の現状から考えて統合反対である。社会文教委員会としてはやはり反対で9月県会で長野県議会は繊維学部から蚕糸学科を取り除くことは絶対反対であるとし、蚕糸学部を作る場合は上田におくようにとの結論になった。大学の先生は割合信念がない。
- ◇塩(福島支会) 猪坂、母袋両氏の意見に賛成、府県の蚕業試験所では大学新卒を非常にほしがっている。
- ◇中島(宮崎支会) 大学に関係するものとして発言、大学教育は現在転換期に来ている、大学は悩んでいる、学校当局はその運営において文部省相手と仲々困難であるが、地域業者の声を良く聞いて連絡を密にして行く事を望む。
- ◇浦生顧問 長野県が蚕糸教育統合の地である、真理は一つ大学と業者の意見が一致しても良いではないか、それから文部省に働きかけたい。
- ◇山本(宮城支会) 蚕糸学科を拡充強化して母校におくことに同窓生の気持を得ることに統一したい。
- ◇市川(群馬支会) 現実を認識しなければならないということも大切であるが、統合した蚕糸学部を上田に持つようにしたい。
- ◇松尾理事 繊維農学科を代表して発言、学部の発展のため工学体系を打ちたてたいという意見は学内に抜き難いものがある。東京の場合も同じことだった。科の運営からみて

- も蚕糸の5大会社合計で毎年一人しか採用していない。織農に改組して蚕糸は4の比重になった。このままでは将来の教育人事に困難がある。
- ◇浦生顧問 大学内の意見と業界意見とは喰い違っている。
- ◇小山(北佐久支会) 学部長は業界の熱意がたりないというが、学部長の意見を伺いたい。
- ◇田口理事 繊維学部の教官は信念が足りないとの話であった。本学部の発足は農学系であったが、現在では学部長も工学系として出席している。繊維学部は大部分は工学系で5学科のうち1学科だけが農学系である。こうした中で蚕糸教育を行っても良いものか、統合するならば従来の3繊維学部の内最も熱意のある処へ持って行くべきである。
- ◇竹内理事 繊維農学科の形で存続すべきであろう。大学は教官が独善であるべきではなく、地域社会で学論の支持があるようにすべきだ。
- ◇小松(諏訪支会) 外国から蚕糸業の視察にくると先づ上田に見えろ。千曲会は一致して進みたい。
- ◇江口(近畿支会) 同窓会と教官の意見が食いもがっているが、若い人の意見も聞いたら良いではないか。
- ◇鈴木(愛知支会) 新制大学の卒業生としては工学系統に色彩が強いこともあって若い世代の意見を聞いてほしい。
- ◇小山田(愛知支会) 最近の合成繊維の急速な発展により我々としては現実をしっかりと認識したい。愛知支会の主体は新制大学が大半である。
- ◇小泉学部長 多勢から貴重な意見をいただき感謝する。蚕糸の統合が果して良いか、3大学が独自の行きかたをした方が良いのではないか。若し統合して10年位たつてこの学科をどうしようかということになれば重大な問題である。例えば蚕の人工飼料の研究飼育の工業化、絹の人工合成など計らなければならぬ。戦後の卒業生の意見は今日ご出席の方の意見とは全く違っている。統合問題については現場の意見を聞かないで決めるのは良くないではないか。
- ◇山本議長 ここで千曲会の意見を統一しようと思う。
- ◇猪坂顧問 千曲会の意見を一本にまとめることは困難である。
- ◇小出(静岡支会) 今日の総会は色々の立場から意見が出た教養統合とちがって賛否両論が出たことは良い、ここで意見統一の必要はない。
- ◇中島(宮崎支会) このような大きな問題について意見をまとめたにしても学部長にそれを強いることは良くない。無理に意見をまとめることはわるいと思う。
- ◇市川(群馬支会) 千曲会の意見がまちまちでは具合が悪い蚕糸教育をのこしておくという方向で決めておいたら良いと思う。
- ◇山本議長 三校の統合した蚕糸学部を上田を中心とした長野県におくことを望む、拍子によってこの議題の審議は終了した。
- (7)母校復興資金の使途について(上小支会)
- ◇島田(上小支会) 新校舎が国費で出来たので復興資金は千曲会館を作るため土地を買う資金又は蚕糸教育統合問題研究に使途したい。
- ◇町田理事 実行委員会解散のさい学生会館を作るのが適当であるとの結論であった。
- ◇山本議長 この問題は理事会に一任ということでどうか。(賛成決定)
- (8)賛助員の推挙について
- ◇坂口理事 本年学部に勤務の講師以上の教官、佐野良樹助教授、間室規講師、係長事務官として武井昭雄会計係長が賛助員に推挙された。
- (9)その他
- ◇山口理事長 本会役員の変更は明年の総会であるが千曲会役員構成について現在学内理事15名、学外理事15名であるが、学外理事を多くするように千曲会のあり方と共に研究しておかれたい。と希望発言があった。かくて全日程の審議を終了して母袋忠右衛門副理事長の閉会のことばがあった。6時30分から市内香青軒で恒例の懇親会を開催出席者は66名で盛会であった。第26回千曲会総会は無事完了した。

昭和39年度社団法人千曲会歳入歳出決算書

歳入決算額金 1,284,027円
 歳出決算額金 1,030,895円
 歳入歳出差引残高昭和40年度繰越金 253,132円
 昭和40年11月23日

社団法人千曲会理事長 山口定次郎

歳 入					
項 目	本年度決算額	本年度予算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	50,438	50,000	438		
2.会 費	746,020	721,000	25,020		
3.入 会 金	74,497	64,000	10,497		新入会員 186名
4.基本財産利子	85,684	87,800		2,116	三菱貸付 信託 電話債券 楓荘利用 件数22件
5.施設使用料	18,320	19,000		680	
6.雑 収 入	309,068	97,700	211,368		年賀、暑 中見舞、 会社広告
1) 広告料	41,740	80,000		38,260	
2) 印 税		100		100	
3) 普通年金利子	4,328	4,100	228		
4) 雑 入	13,000	13,500		500	絹糸の構 造 会員名簿 代
5) 名簿売上代	250,000		250,000		
7.寄 附 金		1,000		1,000	
合 計	1,284,027	1,040,500	243,527		

歳 出					
項 目	本年度決算額	本年度予算額	増	減	備 考
1.会 議 費	95,465	97,000		1,535	
1) 代議員旅費	51,600	51,800		200	45名
2) 総会需用費	18,900	20,000		1,100	
3) 役員旅費	17,380	16,200	1,180		15名
4) 役員会需用費	7,585	9,000		1,415	
2.事 務 所 費	240,572	249,200		8,628	
1) 給 料	120,030	120,000			
2) 備 人 料	21,450	23,100		1,650	動静調査 用務
3) 旅 費	40,250	40,500		250	支会總會
4) 役員交際費	9,170	10,000		830	
5) 賞 与		100		100	
6) 備 品 費	2,250	3,000		750	楓荘標識 柱
7) 消耗品費	14,350	14,500		150	
8) 会費収金費	20,150	21,000		550	領収書
9) 通信運搬費	7,472	12,000		4,528	
10) 雑 費	5,180	5,000	180		
3.事 業 費	471,397	418,400	52,997		
1) 会報発行費	351,580	348,000	3,580		
(1) 編集費	4,830	10,000		5,170	会報11回 印刷費
(2) 印刷費	204,600	190,000	14,600		

(3)送 料	139,450	138,000	1,450		
(4)需用費	2,700	10,000		7,300	
2)出版費		100		100	会員名簿 発行準備 費
3)会員名簿発行費	50,000	60,000		10,000	
4)講演講習諸費		100		100	
5)研究補助費		100		100	
6)調 査 費	60,520	100	60,420		統合問題 調査費
7)慶 弔 費	9,297	10,000		703	
4.厚生施設費	16,174	21,000		7,826	
1)管 理 費	8,415	10,800		2,385	
2)光 熱 水 料	2,134	5,800		3,666	
3)公 租 公 課	5,625	7,400		1,775	
5.基本財産造成費	74,497	64,000	10,497		
6.会費納入交付金	132,790	174,900		42,110	32支会交 付金
7.予 備 費		13,000		13,000	
合 計	1,030,895	1,040,500		9,605	

昭和39年度基本財産状況

基 本 財 産	基 本 財 産 保 管 状 況
固定資産 1,114,600円	
不動産 1,114,600	長野県北佐久郡御代田町大字草越 字向原19の35
土 地 563,550	663坪(昭和37年12月4日登記済)
建 物 551,050	木造平家建瓦葺 12.5坪
流動資産 1,111,688	三菱貸付信託 520,000円 〃 金銭信託 18,035円 電信電話債券(額面69万円) 573,653円
基本金 1,111,688	
合 計 2,226,288	

項 目	収 入	支 出	現在高	備 考
前年度繰越金	1,037,191			
本年度利子収入	85,684			
本年度積立金	74,497			
通常会計繰入金		85,684		
合 計	1,197,372	85,684	1,111,688	

昭和39年度特別会計報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	164,567	楓 荘 備 品 費	40,000
利 子	16,433	統 合 問 題 調 査 費	89,047
		雑 費 (慶弔費)	4,371
合 計	181,000	合 計	133,418

差引残高 47,582円は昭和40年度に繰越す

昭和39年度特別活動資金報告

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	235,616	就 職 幹 旋 委 員 会 費	

寄附金		旅費	5,300
利子	10,600	募金経費	
合計	246,216	合計	5,300

差引残高 240,916円は昭和40年度に繰越す
昭和39年度千曲会菅平部分林管理費報告

取 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	101,791	調査費	1,600
雑入	744	管理人謝礼	1,960
預金利子	744	楓荘施設費	25,420
合計	102,535	合計	28,980

差引残高 73,555円は昭和40年度に繰越す
昭和39年度厚生事業収支報告

取 入		支 出		備 考
項 目	金 額	項 目	金 額	
前年度繰越金	618	事務費	55,500	
理髪代收	78,000	消耗品費	4,390	
		電気料	9,718	
		借家料	6,203	
		雑費	2,000	
合計	78,618	合計	77,811	

前年度繰越金	5,511	仕入金	1,043,740
売上高	1,123,990	運搬費	4,040
販売手数料	21,957	販売手数料	37,892
雑入	318	組合費	2,890
		雑費	3,070
		事務費	60,000
合計	1,151,776	合計	1,151,632

差引残高 807円(理髪)及び144円(たばこ)は昭和40年度に繰越す

母校火災復興資金募集費報告書(昭和40年11月17日)

収入額	金 3,723,920円
支出額	金 461,173円
差引残高	金 3,262,747円
差引残高の保管状況	定期預金 2,872,230円 定期預金(学内) 369,674円 普通預金 20,843円

取 入		40.3.31現在(A)		40.4.1以降(B)		(A)+(B)	備 考
項 目	予算額						
寄附金	5,800,000	3,387,474			3,387,474	1,507名分 (定期利子 332,230円 普通利子 4,216円)	
利子		265,373	71,073		336,446		
合計	5,800,000	3,652,847	71,073		3,723,920		

支 出		40.3.31現在(A)		40.4.1以降(B)		(A)+(B)	備 考
項 目	予算額						
会議費	20,000	25,950			25,950		

旅費	70,000	39,210	39,210
備入料	25,000	5,750	5,750
支会募金事務費	500,000	300,480	300,480
通信費	100,000	49,170	49,170
印刷費	30,000	28,200	28,200
消耗品費	30,000	7,670	7,670
雑費	5,000	4,745	4,745
予備費	20,000		
合計	800,000	461,173	461,173

会員名簿発行費報告

取 入		支 出		備 考
項 目	金 額	項 目	金 額	
補助金	110,000	編集費	30,705	
広告料	576,400	印刷費	460,000	2,000部
名簿売上代利子	351,075	通信運搬費	51,662	
	2,753	支会募金手数料	153,950	支会還元金(20%)
		消耗品費	27,483	
		一般会計繰入金	250,000	一般会計繰入
合計	1,040,228	合計	973,800	

差引残高 66,428円は昭和40年度に繰越す

昭和41年度社団法人千曲会歳入歳出予算書

歳入予算額	金 1,450,500円
歳出予算額	金 1,450,500円
歳入歳出差引残高	なし

昭和41年11月23日

社団法人千曲会理事長 山口定次郎

歳 入

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増	減	備 考
1.前年度繰越金	60,000	50,000	10,000		(1,800 + 180) × 500
2.会 費	990,000	850,000	140,000		
3.入 会 金	200,000	80,000	120,000		200人 × 1,000円
4.基本財産利子	100,370	90,600	9,770		基本財産1,494,000円
5.施設使用料	20,000	20,000			
6.会報広告料	50,000	67,000		17,000	
7.雑 収 入	29,137	158,900		129,770	
1)印 税		100		100	
2)普通予金利子	4,500	4,300	200		
3)名簿売上代	20,000	150,000		130,000	100部
4)雑 入	4,630	4,500	130		
8.寄 付 金	1,000	1,000			
合 計	1,450,500	1,317,500	133,000		

歳 出

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増	減	備 考
1.会 議 費	250,000	180,000	70,000		

1) 代議員旅費	100,000	60,000	40,000	50人
2) 總會需用費	35,000	30,000	5,000	
3) 役員旅費	85,000	60,000	25,000	10人
4) 役員會需用費	30,000	30,000		10回
2. 事務所費	393,600	380,000	13,000	
1) 給料	180,000	180,000		
2) 備人料	40,000	40,000		
3) 旅費	100,000	63,000	37,000	50人
4) 役員交際費	15,000	15,000		
5) 賞与	100	100		
6) 備品費	2,000	5,000	3,000	
7) 消耗品費	15,000	20,000	5,000	用紙, 封筒
8) 會費收金費	15,000	31,000	16,000	振替用紙
9) 通信運搬費	15,000	15,000		切手, 電話料
10) 新入會員 歡迎費	11,500	11,500		
3. 事業費	333,200	424,900	91,700	
1) 會報發行費	253,000	364,500	111,500	
(1) 編集費	5,000	1,000	5,000	
(2) 印刷費	138,000	202,500	64,500	4回
(3) 送料	100,000	138,000	38,000	
(4) 需用費	10,000	14,000	4,000	
2) 出版費	100	100		
3) 會員名簿 發行費	70,000	50,000	20,000	宛名カ 一下外
4) 講演講習諸費		100	100	
5) 研究補助費		100	100	
6) 調査費	100	100		
7) 慶弔費	10,000	10,000		
4. 厚生施設費	45,700	44,500	1,200	
1) 備品費	18,000	20,000	2,000	備品 修繕
2) 管理費	13,000	11,200	1,800	
3) 光熱水料	6,200	5,800	400	
4) 公租公課	8,500	7,500	1,000	
5. 基本財産造成費	200,000	80,000	120,000	
6. 會費納入交付金	208,000	187,500	20,500	(1,800 +180) ×150円 ×0.7
7. 予備費	20,000	20,000		
合 計	1,450,500	1,317,500	133,000	

昭和39年度財団法人上田纖維科学振興會歳入歳出決算書

歳入決算額	金 358,623円
歳出決算額	金 358,623円
翌年度繰越金	金 163,099円

歳 入					
項 目	決算額	予算額	増	減	備考
1. 前年度繰越金	111,711	73,800	37,911		
前年度繰越金	111,711	73,800	37,911		
2. 基本財産利子	244,786	244,800		14	

基本財産利子	244,786	244,800		14	電話債 券額面 330万 貸付信 託10万
3. 雑 収 入	2,126	2,100	26		
当座予金利子	2,126	2,000	126		
雑 入		100		100	
4. 寄 付 金					
合 計	358,623	320,700	37,923		

歳 出

項 目	決算額	予算額	増	減	備考
1. 事 務 費	35,524	36,700		1,176	
1) 手当及び旅費	13,060	13,200		140	
手 当	7,200	7,200			
旅 費	5,860	6,000		140	
2) 需 用 費	8,512	9,500		988	
消 耗 品 費	3,750	4,000		250	
通 信 運 搬 費	2,712	3,200		488	
雑 費	2,050	2,300		250	
3) 会 議 費	13,952	14,000		48	
会 議 費	13,952	14,000		48	
2. 事 業 費	160,000	238,000		78,000	
1) 研究助成及び 表彰費	140,000	168,000		28,000	5名 學術講 演會 4回
2) 学会講演會費	20,000	70,000		50,000	
3. 予 備 費		10,000		10,000	
予 備 費		10,000		10,000	
4. 翌年度繰越金	163,099	36,000	127,099		
翌年度繰越金	163,099	36,000	127,099		
合 計	358,623	320,700	37,923		

昭和40年度へ繰越金 163,099円

昭和41年度財団法人上田纖維科学振興會歳入歳出予算書

歳入予算額	金 322,000円
歳出予算額	金 322,000円
歳入歳出差引残高	な し

歳 入

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備考
1. 前年度繰越金	75,000	70,000	5,000		
前年度繰越金	75,000	70,000	5,000		
2. 基本財産利子	244,800	244,800			電話債券 3,300,000 円 貸付信託 100,000 円
基本財産利子	244,800	244,800			
3. 雑 収 入	2,100	2,100			
当座予金利子	2,000	2,000			
雑 入	100	100			
4. 寄 付 金	100	100			
寄 付 金	100	100			
合 計	322,000	317,000	5,000		

歳 出

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増	減	備考
1. 事 務 費	42,900	41,400	1,500		

支 会 便 り 兵 庫 支 会 総 会 記

昭和40年度千曲会兵庫支会総会は港神戸の東明閣において11月18日夕刻より開催した。折も折、神戸は菊花の香う良い季節であり、本会より山口理事長に御多忙中にもかかわらず御遠路はるばる御来臨戴き、また大塚重蔵(糸8)、若林新一郎(糸10)、奥正己(旧職員)氏等の諸大先輩を始め、続々同窓諸氏が集まり中山コノエ(学紡13)さんが紅一点として花をそえて下さり、盛会に催された。



総会は鈴木支会長の挨拶のあと、望月副支会長の経過報告、丸田幹事の会計報告、次いで役員改選を行い、山口先生より母校の近況や、現在直面している蚕糸教育統合問題について詳細なお話を伺った後、支那料理を囲んで懇親会に入った懇親会は出席者全員の自己紹介があり、お互いに盃を乾しながら有し日の上田の生活やら、仕事についての状況交換やら、飲む程に酔う程に、大いに飲み、そして語り、果ては奥先生の安藝節も飛び出し和やかな総会であった。最後に奥先生の音頭で万才を三唱して母校の発展を祈りつつ盛会裡に散会した。なお当日決定した本年度支会役員は次の通りです。今後ともよろしく願います。(石井記)

- 支 会 長 岩本 賢次 (糸 21)
- 副支会長 佐藤 正明 (紡 24)
- " 小山 彰一 (糸 36)
- 幹 事 里 憲郎 (紡 26)
- " 宮入 治男 (糸 35)
- " 伊藤 辰夫 (紡 27)
- " 丸田 節男 (糸 38)
- " 石井 昭衛 (糸学 8)

愛 知 支 会 総 会

昭和40年度千曲会愛知支会総会は11月14日午後1時から名古屋駅前中小企業センターで会員40名が出席し、本会から白井美明先生を迎えて開催された。

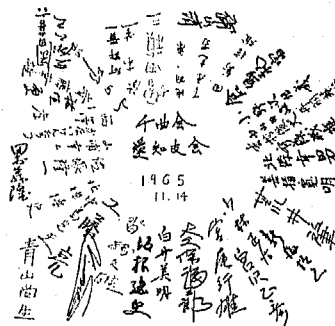
まず小山田支会長から、最近の千曲会の動向を内容とした挨拶があり、白井先

生の挨拶の後議題に入り、稲垣厚氏(化6)から7月総会の報告があった。

白井先生からは、教養部統合問題、蚕糸学部の統合問題について、学部、千曲会の動向について詳細な報告があり、活発な討論が行なわれ、千曲会は、学部の圧力団体になることなく、学部の教育と千曲会が緊密な連絡とりながら、学部の発展に寄与すべきであるとの結論に達した。また千曲会報の発刊については、経費の関係もあると思うが、回数を出るだけ多くするようにし、研究報告よりも学部動向を、学内人事よりも学内紹介の記事など要望が出された。

最後に小山田支会長から、会の運営資金である会費の完全徴収などについて協力の要請があったあと、本部総会の出席者に鈴木薫(学糸7)岡田喜六(糸31)田村義隆(化6)倉島紀富(紡22)杵掛久雄(蚕19)小山田峻(化3)の各氏を選出し、大久保福三郎(糸6)氏の乾杯の音頭で懇談会に入り、自己紹介では、愛社精神を發揮したもの、上田生活の報告、若いものにまけないファイトを披露に及ぶもの、語学力を發揮するもの、海外生活を報告するものあり、和気あいあいのうちに交歓し、寄せ書きをし、再会を約して散会した。

(小林正治・学蚕3記)



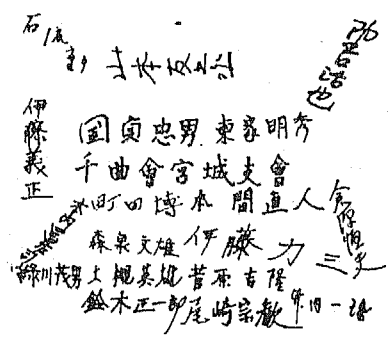
宮 城 支 会 定 期 総 会

今年の支会総会は母校信州大学織学部から蚕糸学科が追い出されそうな雲行きであり、それが千曲会の総会の主要議案になるであらうという想定から、例年は本部総会後に行っていたのを特に繰り上げて11月6日仙台市みづほ荘(宮城県農業協同組合連絡所)で開催した。

この会合には本部から町田理事が出席して蚕糸教育の現状が説明報告され、そのあと恒例の酒宴が開かれたが、話題はその蚕糸教育一点張り、酒が廻るに従って声が大きくなり、針塚精神を強調する先輩、こんな大問題を殆んど知らされなかったことを怒る若人、全くケンケンゴオゴオ、オイ俺にも喋らせろッを繰り返

す者、イヤ全くこれ程活気のあるそして今度の位い発言者の多かった総会は覚えていない。空前絶後ということになるかも知れない。

この空気を上田の本部総会に伝える代議員選出の段取りとなったとき、従来の一人制を特に今回は非常時だという認識から先輩組(専門学校出)から山本支会長を、若い者(大学出)からは大槻英雄の兩名を選び出した。(山本記)



当日の出席者は次の通り

- 来賓 町田 博 (本部理事)
- 会員 本間 直人 (蚕 1)
- 農業 元伊具農産校長
- 野口 活也 (蚕 13)
- 県嘱託 前蚕業試験場長
- 国貞 忠男 (糸 15)
- 県立農高教諭
- 山本友五丞 (蚕 15)
- 県農業信用基金協会専務
- 伊藤 力三 (蚕 17)
- 県立丸森高校 校長
- 尾崎 宗敬 (蚕 18)
- 全 教頭
- 東家 明秀 (糸 19)
- 県庁蚕糸課 課長補佐
- 倉沢 恒夫 (蚕 21)
- 農学博士 蚕業試験場長
- 鈴木正一郎 (蚕 22)
- アセチレン系 工場長
- 石渡 重夫 (糸 28)
- 県蚕糸課 製糸係長
- 菅原 吉隆 (糸 33)
- 繭検定所 課長
- 本内富佐司 (学蚕 1)
- 蚕業講習所
- 森泉 文雄 (織農 2)
- 宮城学院大学 教授
- 大槻 英雄 (学蚕 4)
- 丸森高校の先生
- 竹内 一誠 (学蚕 5)
- 全
- 緑川 義男 (学蚕 6)
- 全
- 伊藤 義正 (学蚕 8)
- 亶理高校の先生

会 員 動 静

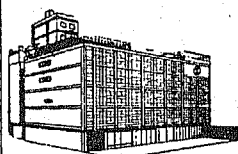
- 森 亮平 蚕 17 埼 玉 埼玉県大宮市南中野字猿花939
- 酒井 嘉美 蚕 17 東 京 片倉自転車KKK(東京都西多摩郡福生町熊川724)(住)東京都西多摩郡福生町熊川543
- 河野 芳春 蚕 18 宮 崎 株式会社大洋サッシ製作所 不二サッシ南九州指定工場取締役総務部長(宮崎市花ヶ島大原2356)(住)宮崎市下北方町陣ノ平3380の2
- 児玉 新一 蚕 24 鹿児島 株式会社衣料品卸問屋丸玉代表者(鹿児島市易居町本通り電(2)0439)
- 岩田 正人 蚕 32 北 信 長野県蚕業講習所教授(長野市岡田町)
- 金井 保 蚕 34 三 丹 郡是製糸KKK研究所(京都府綾部市青野)
- 湯原 理三 蚕 36 群 馬 蚕種協同組合千曲社沼田出張所(住)沼田市材木町32の10
- 果 和一 学蚕7 諏 訪 農林省農事試験場高冷地支場(長野県茅野市玉川)
- 一之瀬高房 農 1 化佐久 北佐久地方事務所(長野県北佐久郡浅間町)(住)長野県小県郡東部町西海野23
- 宮坂美寿雄 糸 16 諏 訪 岡谷コプラ工芸織物KKK取締役社長(岡谷市加茂町3の2の21)岡谷味噌KKK代表取締役(岡谷市天竜町2の2(住)岡谷市東銀座2の8の4電2115)
- 矢野 栄輝 糸 17 安 筑 片倉富士紡ローソンKKK(松

- 本市元町北区197の5) 電(2)3032
- 小松 正敏 糸 24 近 畿 日本レイヨンKKK(住)大阪府豊中市曾根東町2の41の5
- 青木 久夫 学糸5 諏 訪 丸興工業KKK(住)岡谷市塚間町2の1の5号
- 棚田 純夫 学糸8 近 畿 尾西食品KKK大阪工場大阪市東淀川区新高南通2の9 電(391)5901(住)大阪府吹田市千里山松ヶ丘751 浅野住宅106号
- 小林 憲三 紡 19 兵 庫 兼松羊毛工業KKK竜野工場長(兵庫県揖保郡揖保川町新在家15の2)
- 清水 義夫 紡 24 近 畿 コスタリカ国出向連絡先羽羽紡績KKK海外課気付清水義夫(大阪市東区本町2-28)
- 坂田 義人 学紡6 静 岡 日東紡績KKK静岡工場(静岡市長沼258)

編 集 室 よ り

1966年の新年を迎え母校の発展と本会の隆昌を期待し、会員皆様のいよいよご健勝ご活躍を祈念いたします。正月号には小泉学部長の母校この一年の動きに多事であった学部と新しい年々の計画と力強い構想が寄せられた。山口理事長からは新年を迎えて巻頭言を寄せられた。第26回定期総会議題の焦点であった蚕糸教育の改善については総意を反影して前進を望む。すでに地元では長野県議会、上田商工会議所、上田市議会それぞれ統合の場合上田を中心として蚕糸研究機関のセンターとするよう強い要望が関係方面に提出された。新しい大飛躍の年としたい。

編集委員 小林 尚一、竹田 寛、石川 博、松沢 秀二、武井 隆三、金井 清、一之瀬匡興、小笠原真二、篠原 房江、白井 要範



皆様の百貨店

上田・中央




為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店



オルガン

ミン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社長 増 島 芳 美

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北野 次 登

長野市県町524

東京都中央区銀座1の5北野ビル

大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル

松本・高田・ジャカルタ